学位被授与者氏名	大島　美枝子（おおしま　みえこ）
論文題目	Violence and Grace in Flannery O'Conner's Short Stories 『フラナリー・オコーナーの短編における暴力と恩寵』
論文審査結果の要旨	修士論文『フラナリー・オコーナーの短編における暴力と恩寵』は次のような構成になっている。 １.「序章」: フラナリー・オコーナーの文学史上の立ち位置と特徴。 ２.「伝記的背景」: 父親の難病と若い時期の死と、フラナリー・オコーナー自身の難病と 30 代での死を中心に伝記的事実が検討されている。 ３.「文化的背景」: 南部文化とゴシックの伝統の中でのオコーナー像と、南部のカソリック作家としてのオコーナーについて論述されている。 ４.「オコーナーの小説の中の暴力と恩寵」: フラナリー・オコーナーの暴力と恩寵についてこれまでの研究を中心に概説されている。 ５.「暴力と恩寵：5 つの短編小説の分析」:『善人はなかなかいない』、『グリーンリーフ』、『長引く悪寒』、『すべて上昇するものは一点に集まる』、『啓示』の 5 つの短編小説を暴力と恩寵という面から再読し、分析を加えている。 ６.「結論」: 5 つの短編小説の分析の結果をもとに、暴力と恩寵との間に密接な相互関係があることを結論として述べている。 修士論文『フラナリー・オコーナーの短編における暴力と恩寵』は、よくこなれた英文で書かれている。論旨の組み立て方も、論理的で、がっちりと構築されており、無駄が少ない。引用の遣り方も、手堅くしっかりしている。また、オコーナーの 5 つの短編を選んで、暴力と恩寵との関連性に的を絞って、この論文ほど綿密に検討を加えた先行論文を挙げるのは難しい。 平成 27 年 8 月 24 日に、北九州市立大学北方キャンパス 3 号館 3-320 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士（英米言語文化）として十分な内容であると判定した。